

「琉球新報（新聞）記事」のご紹介

校長 中村 成希

八洲学園大学国際高等学校（芸能スポーツクラス）に在学中から、サップ競技で日本代表選手として活躍していた卒業生「田口 頼（たぐち らい）」君と、ジュニア日本代表選手の在校生「宮平 琥太郎（みやひら ことろう）」君の活躍が、琉球新報（新聞）に載っておりますのでご紹介します。

【琉球新報社提供：令和5年11月21日朝刊記事】

海に向かってスタートを切る田口頼（野見光裕氏提供）



田口メダル三つ獲得

SUP世界選手権 吉田、西川も1位



田口頼（野見光裕氏提供）

10月には全日本選手権でテクニカル、ロングディスタンス2冠を達成し、世界大会でも成長を美感じている様子だった（大城三志

岩井壯太（滋賀）の3人のポイントで総合優勝した。メンズマスターズ40代クラスで吉田竜平（名護市）がテクニカル優勝、スプリット3位、15分ディスタンス7位に輝いた。メンズジュニアU-18クラスの宮平琥太郎（座間味村、八洲学園国際高1年）が10分ディスタンス3位、テクニカル7位、スプリント11位に入った。U-15クラスのキッズメンズ1分では西川竜真（座間味中2年）が1位をつかんだ。メンズマスターズ50代クラスの松本晃一（石垣市）はテクニカルとディスタンスで5位、スプリント14位だった。

世界の舞台 成長実感 田口

田口頼がチームメイト2人を合わせた3人で、体が小さな日本人と得て確かな手応えをつかんだ。国際カヌー連盟主催の世界選手権で、年別ごとに幅広い世代が覇を競った。田口は印象に残ったレースとして200分スプリントレースを挙げた。ファイナル進出を果たすも7位でメダルには届かなかった。それでも「予選から決勝まで6本をこいで勝ち上がり、カヌープリントのオリンピックたちも出場すると成果をつかんだ。

3位に輝いたロングディスタンス15分では「レースを引っ張ることができた」と自信を深めた。1分テクニカルでは「ファイナル進出を果たしたが、ファイナルではスタートで大きく遅れてしまった。その後追い上げて4位まで上げることができたのはよかった」と成果をつかんだ。

ICF（国際カヌー連盟）のSUP（スタンドアップパドルボード）世界選手権大会が15、19日、タイのパタヤで行われた。田口頼（本部・八洲学園国際高1年）が10分ディスタンス3位、テクニカル7位、スプリント11位、15分ロングディスタンス3位、開閉オープンメンsteam総合のテクニカルとディスタンスで優勝し、三つのメダルを獲得した。1分テクニカルは4位、200分スプリントは7位だった。国別チーム総合順位は田口、柏原賢宏（広島）とスプリント14位だった。

岩井壯太（滋賀）の3人のポイントで総合優勝した。メンズマスターズ40代クラスで吉田竜平（名護市）がテクニカル優勝、スプリット3位、15分ディスタンス7位に輝いた。メンズジュニアU-18クラスの宮平琥太郎（座間味村、八洲学園国際高1年）が10分ディスタンス3位、テクニカル7位、スプリント11位に入った。U-15クラスのキッズメンズ1分では西川竜真（座間味中2年）が1位をつかんだ。メンズマスターズ50代クラスの松本晃一（石垣市）はテクニカルとディスタンスで5位、スプリント14位だった。